

JET からの手紙

JETの4年間を振り返って

岐阜県観光国際局国際交流課 国際交流員

Silvia Tiemi Ywamoto (岩本・シルビア・千恵美)

私は10歳のときに家族と共にブラジルから初来日し、日本語がまったく話せない状態で小学4年生に入学しました。中学校を卒業し、1年程工場に勤めたあと帰国しました。帰国後、覚えた日本語や日本での経験を活かし、地元の日本語学校で日本語指導ボランティアとして活動していたときにJETプログラムの存在を知り、国際交流員(CIR)としてブラジルと日本に関連するお仕事をしたいと思い、大学では国際関係学を専攻しました。

CIRとして赴任した岐阜県は私の故郷ゴイアス州と同様、国のほぼ真ん中に位置しており、海には面していませんが自然豊かな場所で、過ごしやすいです。外国人に大変人気の観光地である高山市や白川郷へ、日本にきた友達や親戚を案内するために、何度か訪れています。また、近隣の町には気軽に車で遊びに行くことができますし、名古屋にも近いので、中部国際空港から日本各地に旅立つことができるというのも魅力的です。

岐阜県は古くからのづくりが盛んで、製造業が中心的な産業となっています。製造業の現場では、働き手として1990年以降日系人の就労や、研修生・技能実習生の受入れにより、外国人が著しく増加しました。2008年のリーマンショックまではブラジル人の数が最も多く、2万人を超えるほどだったと言われています。その後、大半のブラジル人労働者は帰国などで減っていきましたが、現在は再び右肩上がりです。1万人弱の在住者がいます。

(公財)岐阜県国際交流センターでの業務

岐阜県国際交流センター(センター)では、国際交流や多文化共生を推進しており、在住ブラジル人に関わるたくさんの事業を行っています。ブラジル出身のCIRとして私が関わっている業務について紹介します。

センターの事業の1つであり、私にとって興味深く、

多く携わることができたのは「外国人の子どもと保護者向けのライフプラン講座」です。ブラジル人が集まる教会や多くの子どもたちが在籍している中学校や高等学校に出向き、ファイナンシャルプランナーの先生を迎え、日本の生活にかかるお金や社会保障制度、さまざまな働き方などについて子どもたちや保護者向けに講演会を開催しています。日本語にあまり自信のない方のために、私は逐次通訳者として参加しています。中でも、ブラジル人学校で勉強に励んでいる学生や日本の高校に通っている学生に対して行った「先輩のお話」では、同じような環境や条件で人生を歩んできた先輩社会人として話を直接聞いてもらうことができ、子どもたちに良い刺激が与えられる素晴らしい機会だと思いました。みんなと同じように、出稼ぎ労働者の子どもとして初来日した当時の自分のことを思い出しました。ライフプラン講座



私が来日した当初、両親からは3年後には帰国すると言われていたのですが、最終的には6年間滞在しました。親の都合で日本に来ている子どもたちは少し複雑な一面があると思います。「無理して日本語を学ばなくてもいいのでは」と思うこともあると思います。しかし、私の場合は帰国してからは日本語指導ボランティアとしての活動ができたり、通訳に携わることができたり、日本と関連した企業に就職したり、この素晴らしいJETプログラムに参加できたりと想像以上に日本の学校で学んだことが活かされています。私も先輩のひとりとして、この「先輩のお話」で自分の経験を語る機会をいただき、親の都合がどうであろうと皆さんは今、目の前にあること、

それは日本語やポルトガル語の学習、日本文化を勉強することなど何でも良いので、一生懸命努力すればいつか報われるということを伝えました。

センター以外の活動

県内のさまざまな機関からの派遣依頼をいただくことが多々あり、新鮮で魅力的な業務だと思っています。CIRとしての業務の中で最も一般的な母国の文化紹介依頼も受けています。これまでに児童館の幼稚園児から大学生、社会人など、幅広い年齢層の方に異文化について紹介してきました。

また、岐阜県美術館の第9回円空大賞の「円空大賞」をブラジル出身の作家が受賞されるということで、作家との最初のメールのやり取りから作品制作期間中まで、翻訳や通訳、生活支援などのお手伝いに携わる機会がありました。

岐阜県教育委員会では1978年から農業高校生海外実習派遣事業を実施しています。ブラジルは必ず派遣先の国となってい



「文化の森の秋祭り」でCIRと共に

るため、私は事前研修会でブラジル事情や、簡単なポルトガル語講座を担当しています。農業高校生たちが研修を終えてから実施している報告会にも出席していますが、高校生の目線で語るブラジルについて毎回感心し、母国のことを見つめ直すきっかけにもなっています。

その他の業務

通常業務は、翻訳に関する業務です。センター内の事業に関連した文書はもちろんのこと、岐阜県各課や県内各市町村からの依頼があり、内容もさまざまです。

また、多文化共生のためのポルトガル語講座も年3回のペースで定期的に行っています。企画からすべて任せてもらっているので就任した当時



ポルトガル語講座

から試行錯誤しながら取り組んでいます。ネイティブという理由だけでやっているのも、正確な文法などを説明するよりも、ポルトガル語の基本的なあいさつや会話ができるきっかけづくりを心がけています。そして、ブラジル人やポルトガル語に興味のある市民の方と交流できる場でもあるので楽しくやらせてもらっています。

ほかに、私の出身地ゴイアス州についての紹介や体験型として、在日ブラジル人女性の間で流行ったヒップアップ体験、



ブラジルのヒップアップ体験

他のCIRと一緒に取り組んだイースターの紹介、料理教室などがあります。

今後の取り組みに係る抱負など

私は、新たな挑戦のため、この4年目でCIRを卒業することにしました。夢に見ていたJETプログラムに参加することができ、本当に多くの方に感謝しています。私が特別に岐阜県へ残せたものはないかもしれませんが、逆に得たものはたくさんあります。想像していた以上に充実した日々を送ることができました。素晴らしい職場環境、素晴らしい同僚との出会いにとっても感謝しています。残りわずかとなりましたが、12月に控えている県のCIRと一緒に作るイベント「世界のクリスマス」を成功させ、後任のための引継をしっかりとっておきたいと思います。そして、JETプログラムで学んだ知識や経験を活かしてステップアップしていきたいと思っています。

プロフィール



Silvia Tiemi Ywamoto

ブラジル出身の日系3世。CIR 4年目。幼い頃家族と来日し、5年間義務教育を受ける。帰国後、地元の日本語学校で日本語指導ボランティアとして13年間従事。JETプログラムへの参加を目標に大学では国際関係学を専攻。来年はこれまでの経験を活かし日本で就職する予定。